OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Gallia　54号　会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2015, 54, p. 164-174
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61946
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

会員研究活動報告

（2014 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

青木　佑介

論文
・*Hiroshima mon amour* の生成研究―「一度きり」または「唯一の」物語を巡って―（*GALLIA,* n° 53，pp. 71-80，3 月）

口頭発表
・*Hiroshima mon amour* における水と忘却（関西学生フランス文学研究会，神戸大学，9 月 22 日）

足立　和彦

論文
・メズロワ，リシュパン，ザッハー＝マゾッホ―英訳モーパッサン「偽作」の調査報告 ―（『西洋文学研究』n° 34，大谷大学西洋文学研究会，pp. 1-15, 6 月）
・Maupassant reporter au Maghreb en 1881（『フランス語フランス文学研究』n° 105，pp. 77-94，8 月）

口頭発表
・英訳モーパッサン「偽作」の正体（大谷大学西洋文学研究会，於大谷大学，7 月 19 日）

雑誌記事
・対訳で楽しむ『脂肪の塊』（『ふらんす』，白水社，4 月号―9 月号，各回 4 p.）

安達　孝信

論文
・ユイスマンスの美術批評と小説創造―『現代芸術』から『さかしま』へ―（*GALLIA,* n° 53，pp. 31-40，3 月）

阿南　婦美代

単著
・『留学とホームステイのフランス語』（白水社，6 月）

共著
・『パショネマン I（三訂版）』（第三書房，1 月）

井元　秀剛

論文
・ト条件文とタラ条件文の使い分け（大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2013：時空と認知の言語学 III』，pp. 1-10，5 月）

岩根　久

論文
・イタリアソネットの自動押韻ラベル付与―ペトラルカ『カンツォニエーレ』のソネット―（『人文学データのマイニング（統計数理研究所共同研究リポート 322）』，統計数理研究所，pp. 25-33，3 月）

口頭発表
・CALL 教室におけるフランス語動詞活用 Web 教材「活用虎の穴」の効果的利用法（第 12 回 e-Learning 教育学会，関東学院大学金沢文庫キャンパス，3 月 15 日）
・ソネの脚韻分析に向けて　―ペトラルカ『カンツォニエーレ』のソネットを中心に―（統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」，統計数理研究所，3 月 29 日）

岩村　和泉

口頭発表
・バルザックと社会的紐帯の問題：バルザックの人物は社交的か？（関西バルザック研究会，大手前大学，8 月 30 日）

上江洲　律子

論文
・マルロー『侮蔑の時代』における身体の表象（『沖縄国際大学外国語研究』第 17 巻第 2 号，pp. 1-14，3 月）

報告
・外国語としてのフランス語教育およびケベックの文化と社会に関する研修への参加報告（『沖縄国際大学総合学術研究紀要』第 17 巻第 2 号，pp. 141-152，3 月）

太田　晋介

論文
・Le *logos* et sa fabulation : Francis Ponge pendant son moment critique（*GALLIA*，n° 53，pp. 61-70，3 月）

口頭発表
・フランシス・ポンジュとまどろみの詩学，夢のフィギュール―1941 年のテクスト生成を中心に（日本フランス語フランス文学会全国秋季大会、広島大学、10 月 25 日）

小川　美登里

論文
・Les filles de l'eau, un imaginaire en partage : Marguerite Duras et quelques écrivains japonais（Florence de Chalogne *et al.*, Orient(s) de Marguerite Duras, Amsterdam /New York, Éd. Rodopi, pp. 329-342）
・彼女は海に身を投げなかった　（『マルグリット・デュラス生誕百年、愛と狂気の作家』河出書房新社，pp. 162-166）

口頭発表
・Écrire sur le corps mort du monde —Sur *Hiroshima mon amour* —（マルグリット・デュラス生誕 100 周年国際シンポジウム「書くことこそ，と彼女は言う」，立教大学，3 月 1 日）
・L'Imaginaire d'un Japon secret（« Pascal Quignard : Translations et métamorphoses »，スリジー・ラ・サル国際文化会議センター，7 月 10 日）

・Entre la catastrophe et la survivance : sur *Hiroshima mon amour* de Marguerite Duras（日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ，«Le moment Hiroshima mon amour — à l'occasion du centième anniversaire de Marguerite Duras»，広島大学，10 月 26 日）

柏木　加代子

共著
・『日仏文学・美術の交流―「トロンコワ・コレクション」とその周辺―』（『大手前大学比較文化叢書』n° 10，思文閣出版，「フロベールとボザール教授ボナ」pp. 86-110，3 月 31 日）

柏木　隆雄

共著
・『日仏文学・美術の交流　―「トロンコワ・コレクション」とその周辺―』（『大手前大学比較文化叢書』n° 10，思文閣出版，pp. i-v，3 月 31 日）
・『フランスところ、どころ（Aux quatre coins de France)』（弘学社，p.119，4 月 1 日）
・『島崎藤村に見るジャン＝ジャック．ルソー―『破戒』から『新生』へ―』（『ルソーと近代』風行社，pp. 379-398，4 月 25 日）

論文
・モーパッサン『首飾り』を読む（『大手前大学論集』　n° 14，pp.　85-105，3 月 31 日）
・翻訳文学の力――翻訳は何を創ってきたか（岡山大学文学部プロジェクト研究報告書「文化の交流、文化の翻訳」http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/journal/rpkp/，pp. 105-123，4 月 30 日）

翻訳
・バルザック『ソーの舞踏会』（ちくま文庫，4 月 10 日）
・バルザック『暗黒事件』（ちくま文庫，6 月 10 日）

エセー・座談会・冊子
・文学と翻訳をめぐって（岡山大学文学部プロジェクト研究報告書「文化の交流、文化の翻訳」http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/journal/rpkp/，pp. 143-162，4 月 30 日）
・ジョゼフ・ファーヴル『実用料理百科大事典』の復刻を喜ぶ（*Joseph Favre Dictionnaire universel de Cuisine pratique*, Athena press, 1 月 30 日）
・日本のフランス学　濫觴から現在まで（『さえら』n° 32，大分日仏協会，pp. 1-2，6 月 10 日）
・福井有前理事長を憶う（『AMAMUS OTEMAE』n° 3，大手前大学，p. 1，6 月 18 日）
・小津監督に寄せて（『小津安二郎生誕 110 年記念事業 in 松阪　記念誌』，小津安二郎生誕 110 年記念事業実行委員会，p. 62，6 月）
・上方料理を語る（『やそしま』n° 8，関西・大阪 21 世紀協会，上方文化芸能運営委員会，pp. 104-165，10 月 31 日）
・「福井有前理事長を偲ぶ会」に出席して（『大手前大学　同窓会会報』vol.5，11 月）

口頭発表・講演
・ペン一本で立つ　バルザックの生涯と作品（インターカレッジ西宮レクチャー，西宮市大学交流センター，1 月 23 日）

・バルザック『谷間の百合』を読む（インターカレッジ西宮レクチャー，西宮市大学交流センター，1 月 30 日）
・「小説家」小林一三の位置（小林一三記念館講演，2 月 8 日）
・菊池寛とその周辺（四国電気・管工事業協会特別講演，リーガホテルゼスト高松，2 月 13 日）
・正岡子規の書と歌（山茶花会結成 40 周年講演，阪大中之島センター 3 月 3 日）
・幸田露伴『芭蕉七部集』評釈「猿蓑」を読む（西宮市大学交流センター，3 月 13 日）
・三好達治とフランス詩（三重日仏協会，放送大学三重学習センター共催，三重県総合文化センター文化会，4 月 13 日）
・三好達治の詩的世界（第 6 回中日日本言語文化研究国際シンポジウム講演，大連大学日本言語文化学院，5 月 31 日）
・バルザック小説の面白さ（トークライブ，大手前大学図書館，6 月 18 日）
・フランスの食と文化と音（芦屋 Gille，7 月 1 日）
・バルザックの生涯と作品（大阪東ライオンズ・クラブ講演，大阪ホテル・ニューオータニ，7 月 29 日）
・フランス文学研究・翻訳の現在―小説の場合（日本フランス語フランス文学会秋大会シンポジウム，広島大学，10 月 25 日）
・フランス漫画の原点―ドーミエとガヴァルニ（大手前大学交流文化研究所「日仏漫画の浸透と交流」，大手前大学，11 月 23 日）
・菊池寛の文学（キリスト教文学研究会，青山学院大学，12 月 6 日）
・菊池寛とバルザック（関西バルザック研究会，大手前大学，12 月 23 日）

粕谷　祐己

口頭発表
・スタンダールにおける「貴族」と「民衆」―世界史のなかの日本とフランス（「フランスにおける日本学、日本におけるフランス学」，富山大学人文学部，2 月 27 日）

加藤　靖恵

論文
・プルーストとエミール・マール　(2) ―シャルトルとラン大聖堂における聖母の魂を運ぶ天使の彫像―（*Stella : études de langue et littérature françaises*, n° 32，九州大学フランス語フランス文学研究会，pp. 189-293）
・Le progrès “technique” du XXIe siècle et la génétique textuelle : l’état actuel des recherches sur les épisodes d’Elstir（*Proust Pluriel,* sous la direction de Mireille Naturel, Presses Sorbonne Nouvelle, pp. 61-75）

・Proust et Emile Mâle : la cathédrale de Laon（*Bulletin Marcel Proust,* n° 64, pp. 57-69）

書評 ・中野知律『プルーストと創造の時間』（*Stella : études de langue et littérature françaises*, n° 32, 九州大学フランス語フランス文学研究会, pp. 69-76）

講演 ・『星の王子さま』の秘密 ―外国文学を原語で読む愉しみ（学びの杜・学術コース, 名古屋大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター, 7 月 28 日）

金崎　春幸

単著 ・『フローベール研究―作品の生成と構造―』（大阪大学出版会，9 月）

川上紘史

論文 ・『パンセ』における邪欲の現世への影響（ *GALLIA,* n° 53，pp. 1-10，3 月）

口頭発表 ・パスカル『パンセ』における盲目の意味（第 74 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会，大阪大学，3 月）

・Pascal et Jansénius : Une étude comparative de la valeur d'une notion d'aveuglement（第一回フランス哲学・文学合同研究会，大阪大学，3 月）

・パスカル『パンセ』における盲目表現の意味（パスカル研究会，お茶の水女子大学，5 月）

・パスカルにおける《盲目》について（日本フランス語フランス文学会関西支部会，京都大学，11 月）

北村　卓

編著 ・『表象と文化 XI』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2013」，p. 61，5 月）

共編著 ・*Japan and Europe in Global Communication*（sponsored by Japan Foundation, Mykolas Romeris University, Vilnius（Lithuania）, p. 297, 3 月）

論文 ・宝塚歌劇におけるフランスのイメージ―『ベルサイユのばら』の成立をめぐって―（お茶の水女子大学『比較日本学教育研究センター研究年報 n° 10』pp. 47-56，3 月）

・La réception créative de Baudelaire chez Kafû, Tanizaki et Akutagawa（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2013」『表象と文化 XI』（研究代表者：北村卓）所収，pp. 25-32，5 月）

小坂　美樹

講演 ・アンドレ・ジッドの虚構の日記―日記体小説『女の学校』を中心に（日仏文化講座 CAF，7 月 8 日）

小山　美沙子

論文
・19 世紀前半のフランスにおける女子教育論に見る知育擁護の言説（2）（名古屋外国語大学外国語学部『紀要』n° 46，2 月 1 日）

坂巻　康司

論文
・Une stratégie poétique : le cas de Shuntarô Tanikawa（*Modernités* 37: *Transmission et transgression des formes poétiques regulières*, Eric BENOIT (dir), Presses Universitaires de Bordeaux, pp. 275-283）

口頭発表
・20 世紀後半のフランス演劇における＜他者＞の相貌―サルトルからコルテスへ―（関西マラルメ研究会第 18 回研究発表会，神戸大学梅田インテリジェント・ラボラトリ，3 月 30 日）
・ドゥルーズにおける二つのマラルメ像（日本フランス語フランス文学会秋季大会，シンポジウム「哲学者が語る複数のマラルメ像」，広島大学、10 月 26 日）
・近代日本におけるフランス象徴主義―上田敏（1874 － 1916）とその時代―（第 21 回公開講座「国際文化基礎講座」『「知」の国際文化学―近世近代日本の学術と世界』，東北大学，11 月 22 日）

翻訳
・ヴァレリー・ユゴット「私が失くしたあの影」（『トラウマと喪を語る文学』中里まき子編，朝日出版社，pp. 191-201，2 月）
・ジャック・ランシエール『マラルメ―セイレーンの政治学』（森本淳生との共訳，水声社，5 月）

阪村　圭英子

講演
・フランスとクール・ジャパン（千里フェスタ，府立千里高校，3 月 13 日）

佐藤　久仁子

論文
・フランソワ・モーリャックと遠藤周作―『テレーズ・デスケルー』翻訳序文に現れる「キリスト」をめぐって（CARITAS n° 48，カリタス女子短期大学，3 月 1 日）

高岡　尚子

単著
・『摩擦する「母」と「女」の物語―フランス近代小説にみる「女」と「男らしさ」のセクシュアリティ―』（晃洋書房，1 月 20 日）

編著
・『恋をする、とはどういうことか？―ジェンダーから考えることばと文学』（ひつじ書房，4 月 14 日）

論文
・「老い」はどう語られるか―ジョルジュ・サンド晩年の作品を通して―（奈良女子大学文学部欧米言語文化研究会『欧米言語文化研究』n° 1）

髙橋　愛

論文
・ゾラ『パリ』と写真をめぐる視覚体験―窓辺の記憶からたどる母子の表象―（*GALLIA*, n° 53, pp. 21-30, 3 月）
・ゾラにおける自転車に乗る女―『パリ』と写真をめぐる一考察―（『武蔵大学人文学会雑誌』第 46 巻第 1 号, pp. 89-105, 10 月）

口頭発表
・ゾラにおける文学と写真の接点（第 74 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学, 3 月 8 日）
・ゾラ『ルルド』、『パリ』とオーギュスト・パリのマリアンヌ像（日本フランス語フランス文学会全国秋季大会ワークショップ「近代フランス文学におけるモニュメント―記憶・複製・再創造―」, 広島大学, 10 月 26 日）

武田　裕紀

論文
・エティエンヌ・パスカルから見えるデカルト像―1638 年のパリ―（『追手門学院大学基盤教育論集』n° 1, pp. 15-24）

共訳・責任編集
・『デカルト全書簡集　第二巻』（知泉書館, 2 月）

口頭発表
・デカルト光学を構成するもの（京都哲学史研究会, 楽友会館, 3 月）

立川　信子

論文
・シモーヌ・ド・ボーヴォワールの『老い』についての考察―作家の創作をめぐって―（愛媛大学法文学部論集人文学科編 n° 36, pp. 1-18, 2 月）
・19 世紀末から 20 世紀初頭の文学における風景についての試論（愛媛大学法文学部論集人文学科編 n° 37, pp. 23-43, 9 月）

アニエス・ディソン

論文
・L'illisibilité en questions（*Quintane ou les paradoxes de la transparence*, dir. Bénédicte Gorrillot, Presses Universitaires du Septentrion, Lille, pp. 199-207）

口頭発表
・*Ryoko Sekiguchi : spéculations fantômes*（"Money/ L'argent" 20th/21st Century French and Francophone Studies International Colloquium, New-York University, CUNY, Columbia University, USA, 6-8 mars ）

講演
・Jacques Roubaud, *Tokyo infra-ordinaire*（Séminaire « Quotidien et littérature », Bard College, NY, USA, 5 mars）
・Jacques Roubaud : le chiffre du deuil dans *Quelque chose noir*（Université de Valenciennes, Faculté des Lettres, 26 septembre）

寺本　成彦

共著
・『フランス、ところどころ』（弘学社, 4 月）

論文
・エドガー・アラン・ポーに学ぶロートレアモン＝デュカス―「大鴉」，「沈黙」，「告げ口心臓」におけるリフレインを中心に―（『ヨーロッパ研究』n⁰ 9，東北大学大学院国際文化研究科ヨーロッパ文化論講座，pp. 165-191，3 月）
・Ôoka Makoto au carrefour de la poésie traditionnelle japonaise et de la poésie moderne occidentale—Vers la forme comme «tremplin» (re) créatif（*Transmission et transgression des formes poétiques régulières, Modernités,* n⁰37, Éric Benoit（dir.）, Presses Universitaires de Bordeaux, octobre）

共訳
・ミッシェル・ドゥギー「マグニチュード」（西山雄二編『カタストロフィと人文学』，勁草書房，9 月）．

口頭発表
・文学研究から＜映画学＞、＜映画主義＞を望見する―理論的な予備考察として―（文学と映画研究会，東北大学東京分室，9 月）
・浮遊する映画的視点を追って―J・ルノワール『ピクニック』における視角の人称性・非人称性―（文学と映画研究会，東北大学東京分室，9 月）

徳永　雅

講演
・モンテーニュと旅―旅することは生きること―（日仏文化講座 CAF，神戸国際会館，10 月 28 日）

長谷川　富子

講演
・ココシャネルのモード革命―女性の解放とライフスタイルの変化―（日仏文化講座 CAF, 神戸国際会館, 1 月 28 日）

濱田　明

共著
・『フランスところ、どころ（Aux quatre coins de France）』（弘学社，4 月）

論文
・ピブラック『四行詩集』の三つの段階（『ロンサール研究』n° 27，pp. 25-42，7 月）
・La réception de Lafcadio Hearn en France au début du XX^{e} siècle（*Lafcadio Hearn Studies Style, Recetpion, and Resonnance*, Society for Lafcadio Hearn Studies, Kumamoto University, pp. 45-50, 3 月）

口頭発表
・16 世紀の宮廷と詩（日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「・・・と文学」―混淆性の探求に向けて，別府大学，10 月 27 日）
・フランスにおけるハーン（熊本八雲会「ハーン作品トークの会」，小泉八雲熊本旧居，7 月 22 日）

林　千宏

論文
・夢におけるイメージの崩壊―ジョアキム・デュ・ベレー『夢』（1558）を巡って（『ロンサール研究』n° 27，pp. 1-23，7 月）

口頭発表
・夢におけるイメージの崩壊―ジョアキム・デュ・ベレー『夢』を巡って（共同研究「夢と表象―メディア・歴史・文化」研究会，国際日本文化研究センター，1 月 26 日）
・16 世紀フランスにおける詩と絵画―プレイヤッド派の詩人たちを中心に（第 14 回総合学術文化学会，亜細亜大学，3 月 14 日）

春木　仁孝

編著書
・『フランス語学の最前線 2』（特集：時制論）（ひつじ書房，5 月）

論文
・ça mouille（ça +動詞）構文のネットワーク（言語文化共同プロジェクト 2013『時空と認知の言語学 III』，大阪大学大学院言語文化研究科，pp. 41-50，5 月）
・フランス語の時制と認知モード―時間的先行性を表わさない大過去を中心に―（『フランス語学の最前線 2』，ひつじ書房，pp. 1-44，5 月）
・ÇA を主語とする発話と認知モード（『フランス語学研究』n° 48，日本フランス語学会，pp. 63-84，6 月）

口頭発表
・tout の強意用法について（日本フランス語学会第 297 回例会，早稲田大学文学学術院 戸山キャンパス，12 月 6 日）

書評
・小田涼著『認知と指示　定冠詞の意味論』（*Cahier* n° 14，日本フランス語フランス文学会，pp. 25-27，9 月）

廣田　大地

論文
・App Inventor 2 を用いた語学学習アプリ作成の具体例（『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』n° 10，pp. 20-34，3 月）
・英文法知識に基づいたフランス語文法学習の有効性について（『Rencontres』n° 28，関西フランス語教育研究会，pp. 45-49，8 月）

研究報告
・App Inventor を用いた語学学習アプリ開発方法及びその演習への導入について（『教育システム情報学会研究報告』n° 28（5），pp. 33-36，1 月）

口頭発表
・App Inventor を用いた語学学習アプリ開発方法及びその演習への導入について（教育システム情報学会，2013 年度第 5 回研究会：「スマートデバイスによるこれからの教育・学習環境」，高知工科大学，1 月 11 日）
・英文法知識に基づいたフランス語文法学習の有効性について（関西フランス語教育研究会，アンスティチュ・フランセ関西－大阪，3 月 28 日）
・バンヴェニストによるボードレール論の草稿、ならびにその出版の経緯について／ボヌフォワによるボードレール論に対する反駁としてのバンヴェニストのボードレール論（日本フランス語フランス文学会 2014 年度秋季大会ワークショップ「ボードレール／バンヴェニスト―詩学と言語学のはざまで―」，広島大学，10 月 26 日）
・押見修造『悪の華』に見る現代における記号としてのボードレール受容（第 33 回ボードレール研究会，大阪大学，12 月 28 日）

藤田　義孝

解題
・解題（安冨歩『誰が星の王子さまを殺したのか』，明石書店，pp. 243-251，8 月）

宮田　駿介

口頭発表
・『スワン家の方へ』におけるバルベックの言説（第 3 回関西学生フランス文学研究会，神戸大学，9 月 22 日）

山崎　恭宏

口頭発表
・ホフマン『ドン・ジュアンの上演』の影響とサロンにおけるオペラの劇場空間について―『不老長寿の霊薬』、『サラジーヌ』、『あら皮』を中心に―（関西バルザック研究会，大手前大学，3 月 28 日）
・バルザックにおけるオペラの劇場的空間―E.T.A. ホフマン『ドン・ジュアンの上演』の受容をめぐって―（大阪大学フランス語フランス文学会，大阪大学，9 月 27 日）

山上　浩嗣

単著
・『パスカルと身体の生』（大阪大学出版会，336 頁，9 月）

共著
・『フランスところ、どころ（Aux quatre coins de France）』（弘学社，4 月）

論文
・ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相（『待兼山論叢』n° 47 文学篇，大阪大学大学院文学研究科，pp. 1-18，1 月）
・Le bien et le mal dans la pensée politique de Pascal（*Revue d'Études Francophones*, n° 24, Centre de Recherches sur la Francophonie, Université Nationale de Séoul, pp. 347-372, décembre）

共訳
・アントワーヌ・コンパニョン『寝るまえ 5 分のモンテーニュ「エセー」入門』山上浩嗣・宮下志朗訳（白水社，11 月）

口頭発表
・モンテーニュの旅と「気をそらすこと」（平成 25 年大阪大学文学研究科共同研究「西欧近代における旅と風景のディスクール」研究会，北海学園大学，3 月 4 日）
・現代フランスの文化と社会（平成 26 年度三丘（さんきゅう）セミナー，大阪府立三国丘高校，7 月 11 日）
・ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相（第 75 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会，大阪大学豊中キャンパス，9 月 27 日）
・モンテーニュとパスカル―現世のあり方と宗教（CAF 日仏文化講座「＜生きる＞ フランス流」，神戸国際会館，11 月 11 日）
・La dignité de l'homme selon Pascal : du divertissement au pari（Séminaire de M. Young-Mock LEE, Université Nationale de Séoul, 3 décembre）

・Le bien et le mal dans la pensée politique de Pascal（Colloque annuel d'hiver 2014 : «Le mal dans la Littérature française», Société Coréenne de Langue et Littérature Françaises, Université Ajou, Corée, 6 décembre）

山本　健二

論文
・ランボーのカリカチュア的技法―科学的用語の使用を中心に―（『待兼山論叢』nº 47 文学篇，大阪大学大学院文学研究科，pp. 121-133）

口頭発表

和田　章男

論文
・Les écrivains réels dans les Cahiers de Proust（ *GALLIA,* nº 53, pp. 41-50, 3 月）

エッセイ
・様々な「百周年」（『記念会だより nº 98，懐徳堂記念会，4 月』）

口頭発表
・プルーストとショパン（関西プルースト研究会，京都大学，3 月 29 日）